The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

タイ北部ラーンナー王国で成立したパーリ語注釈書の重要性について
―― Vessantaradīpanī の校訂出版に関する報告――

山　中　行　雄

はじめに

筆者は Pāli Text Society（PTS）の Research Grant として，Vessantaradīpanī（Vess-dīp）の批判校訂本を作成中であり，PTS から出版を予定している．Vess-dīp は，タイ北部ラーンナー王国（Lān Nā，1259–1558）で活動したシリマンガラ（Sirimaṅgala）によって著されたヴェッサンタラ・ジャータカ（Vessantarajātaka）の注釈書である．本稿では，Vess-dīp の批判校訂作業について簡潔に報告することと，ラーンナー王国の仏教文献伝承の重要性を論ずることを目的とする．

ラーンナー王国におけるパーリ語文献の伝承

ラーンナー王国は，タイ北部チェンマイを首都とした地方政権であり，諸々のタイ地方政権と同様，上座部仏教を受容し保護していた．ラーンナーで著された歴史書 Jinakālamālī（Buddhadatta, A. P., ed., *Jinakālamālī*, London: Pali Text Society, 1962 = Jinak）が出版され，その後，英訳（Jayawickrama, N. A., *The Sheaf of Garlands of the Epochs of the Conquerer*, London: Pali Text Society, 1968 = Epochs）がなされると，この王国がタイにおける南方上座部仏教の展開とパーリ語文献の伝承において重要な役割を担っていたことが明らかとなった．Jinak は，ラーンナー王 Tiloka の命により，1477/8 年に Wat Jet Yot という寺院で結集が行われ，パーリ語三蔵の改訂が行われたことを伝えている（Jinak 115; Epochs 164–165）．これは，ラーンナーにパーリ語を知悉する学僧が集まっていたこと，そして多種多様なパーリ語写本が保持されていたことを示し，注目に値する．14 世紀前半にはラーンナーからスリランカへ僧侶が派遣され，当地で留学後，帰国したという伝承がある（Jinak 91–95; Epochs 126–133）．Sīhala-bhikkhu と呼ばれる彼らは，スリランカで得た知識とパーリ語写本をラーンナーへ導入したと考えられる．こういったスリランカとの緊密な関係のもとで，上記の結集が行われたと予想される[1]．こうした歴史的背景に注目した O.

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

von Hinüber は，1982 年から 1984 年，そして 1987 年にタイ北部やバンコックでパーリ語写本の調査を行った[2]．彼が収集した資料には，Milindapañha の最古（書写年 1495）の写本[3]，Saṃyuttanikāya の諸古写本[4] といった貴重なものが含まれる．18 世紀以前に遡るパーリ語資料は稀少であるから，ラーンナーで書写された写本群は古層に属する．また，他国・他地域の文献伝承からの影響をあまり受けていない点でも重要な資料である[5]．

注釈家シリマンガラ

ラーンナーでは写本の筆写のみならず，パーリ語で注釈書や歴史書が著された[6]．シリマンガラもラーンナーで活動した注釈家の一人である．彼に帰される諸作の内，写本が現存するのは，Vess-dīp（1517 年），Cakkavālatthadīpanī（1520 年，パーリ語文献中の天体論に関する注釈書），Saṅkhyāpakāsakaṭīkā（1520 年，パーリ語仏典中の度量衡に関する文献 Saṅkhyāpakāsaka の注釈書），Maṅgalatthadīpanī（1524 年，Suttanipāta/Khuddakapāṭha 中の Maṅgalasutta の注釈書）の 4 作である[7]．Vess-dīp をはじめとする著作の中で，シリマンガラは多くのパーリ語文献を引用・言及する．引用・言及は，自らの解釈を根拠づけるため，あるいは他の注釈家の見解を批判するためになされる．また，注釈する箇所に異読がある場合には，kismiñ ci potthake（ある写本には）という表現とともに異読を示す．

シリマンガラによるスリランカ写本への言及

異読への言及は非常に貴重である．シリマンガラは 1517 年に Vess-dīp を完成させたが，それはラーンナーにおける結集から，凡そ 40 年が経過しただけである．Vess-dīp に引用されるテキストの読みは，当時ラーンナーに収集されていたパーリ語文献写本の読みを反映している．言い換えれば，Vess-dīp から，15–16 世紀のタイ北部で伝承されていたパーリ語諸文献の異読を収集することができる．なかでも，シリマンガラは sīhaḷa-pāṭho（スリランカの読みは），あるいは sīhaḷa-potthake（スリランカの写本では）という表現とともに，スリランカ写本の異読を示すことがある[8]．以下にその例を挙げる：

ヴェッサンタラ・ジャータカ本文
iti *taṃ maggaṃ* Jetuttaranagarato tiṃsayojanaṃ hoti[9] ....
都合，ジェートゥッタラ市からの道程は三十ヨージャナに及んだわけであるが[10] ….

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

シリマンガラの注釈（Vess-dīp）
taṃ maggan ti liṅgavipallāso. so maggo ty attho.
「taṃ maggaṃ」は［名詞の］性の錯誤である．「その道程は」という意味である．
taṃ nagaran ti sīhaḷa-pāṭho.
「taṃ nagaraṃ」というのがスリランカの読みである．

なお，今日スリランカ版はPTS版と同じくtaṃ maggaṃという読みを採用しており，taṃ nagaraṃという読みは伝わっていない．このようにVess-dīp中で言及される異読には，現行出版本に残っていないものもあり，場合によっては貴重な読みとなり得る[11]．

Vess-dīpの諸刊本と諸写本について

Vess-dīpはタイで二度出版されている：

1．Samnak Ratlekhathikan, ed. *Vessantaradīpanī. Phak phasa bali*. Krungthep（= Bangkok）: Rong phim chuan phim, 1997.
2．Bhikkhu Nakorn Khemapālī（Phra Rajratanamoli）, ed. *The Critical Edition to the Vessantaradīpanī*. [Bangkok]: Mahachulongkornrajavidyalaya University, 2006.

これらタイ出版本には，校訂作業上の問題がある．刊本1，2ともに使用した写本に関する記述がない．タイ国立図書館蔵の写本に基づいたと推測し得るが[12]，学的な出版本としては重大な問題である．本文に関しては，刊本1の編者は校訂を行わず，時折conjectureを脚注で示している．刊本2の編者は注記なしで本文を校訂している．読者は刊本1と刊本2の本文を比較しない限り，校訂個所を知ることができない．また，両者とも入手が困難である．

写本については，筆者は以下の4写本の画像データを入手した．それらと刊本1を校合して校訂を行っている：

1．タイ写本A：タイ北部Phrae県Sung Men郡．寺院：Wat Sung Men. 書写年：1836.（Hundius 1990, 108–113）
2．タイ写本B：タイ中央部バンコック・トンブリー区．寺院：Wat Hong Ratanam 書写年：1778.（清水 2005, 47）
3．カンボジア写本C-1：出処不明．フランス極東学院（École Française d'Extrême-Orient）所蔵．書写年：1787.（Filliozat 2000, 457）
4．カンボジア写本C-2：カンボジア北西部Battambang. フランス極東学院所蔵．寺院：Wat Po Val. 書写年：不明．（Filliozat 2000, 457；464）

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

A 写本は，かつてラーンナーであった地域で伝承されていた貴重な写本である．A 写本にはタイ刊本と異なる読みが多く，その中には重要なものがある．B 写本はバンコックに伝承されていた断片写本．タイ中央部に現存する写本として，古層に属する．カンボジア写本の C-1 は，書写年代が明記されているが，出処が不明．Battambang から将来された C-2 は断片で誤記が多い．

結び

シリマンガラの著作には，多様なパーリ語文献からの引用が数多く含まれる．引用文の読みは，15–16 世紀のラーンナーに伝承されていた文献の読みを反映している．Vess-dīp をはじめとするラーンナー注釈書の研究を通じて，15–16 世紀に伝承されていた古い異読を収集することができる．18 世紀以前に筆写されたパーリ語写本が少ない現状においては，ラーンナー注釈書は，そこで筆写された写本と同様に重要な資料である．こういった理由から，Vess-dīp の校訂出版は，パーリ語文献の文献学的研究および文献伝承史の研究に貢献し得ると言える[13]．

1）Jinak 古写本には，結集についての記事が欠けている（Penth 1994, 217–218）．

2）von Hinüber（1988b, 14 note 46）．

3）von Hinüber（1987; 1988a）．

4）von Hinüber（1988b, 20–24）; 松濤（1986）．

5）パーリ語文献研究におけるラーンナー写本の意義については，von Hinüber（1988b）を参照．

6）ラーンナーで著作活動をした学僧とその著作については，Penth（1997）および von Hinüber（2000）を参照．von Hinüber（2000, 122–136）はラーンナー注釈家の重要性について簡潔に論じている．

7）von Hinüber（1996, 179 §§ 389–390）．散逸した Gāthādīpaka と真偽未決の Vajirasārasaṅgaha については，山中（2011, 7）を参照．

8）Veidlinger（2006, 76; 101）は，Sīhala-bhikkhu たちがスリランカからラーンナーへ写本を持ち込んだという説に疑問を呈している．しかし，シリマンガラがスリランカ写本へ言及する以上，この説の蓋然性は依然高い．

9）Fausbøll, Viggo, ed., *The Jātaka*, vol. 7, Oxford: Pali Text Society, 1990–1991（1st ed., 1896）, 514（4–5）．

10）邦訳は辛嶋静志; 中村元監修『ジャータカ全集』10，春秋社，1991，183．

11）更なる重要な異読と，その分析は Yamanaka（2011, 26–44）を参照．パーリ語文献研究において，異読の分析が持つ意義については山中（2011）を参照．

12）この写本については，Skilling and Pakdeekham（2002, § 2.84）を参照．

13）写本の画像データを提供してくださった Oskar von Hinüber 氏，Jacqueline Filliozat 女

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

史，清水洋平氏に感謝の意を表します．

〈参考文献〉

[欧文]

Filliozat, Jacqueline (2000) "Pour mémoire d'un patrimoine sacré." *Bulletin de l'Ecole française d'Extrême-Orient* 87 (2), 445–471.

von Hinüber, Oskar (1987) "The Oldest Dated Manuscript of the Milindapañha." *Journal of the Pali Text Society* XI, 111–119.

——— (1988a) "An Additional Note on the Oldest Dated Manuscript of the Milindapañha." *Journal of the Pali Text Society* XII, 173–174.

——— (1988b) *Die Sprachgeschichte des Pāli im Spiegel der südostasiatischen Handschriftenüberlieferung*. Mainz: Akademie der Wissenschaften und der Literatur, Mainz.

——— (1996) *A Handbook of Pāli Literature*. Berlin: Walter de Gruyter, 1996.

——— (2000) "Lān^2 Nā as a Centre of Pāli Literature During the Late 15th Century." *Journal of the Pali Text Society* XXVI, 119–138.

Hundius, Harald (1990) "The Colophons of Thirty Pāli Manuscripts from Northern Thailand." *Journal of the Pali Text Society* XIV, 1–173.

Penth, Hans (1994) *Jinakālamālī. An annotated Index to the Thailand Part of Ratanapañña's Chronicle Jinakālamālī*. Chiang Mai: The Pali Text Society/Silkworm Books.

——— (1997) "Buddhist Literature of Lān Nā on the History of Lān Nā's Buddhism." *Journal of the Pali Text Society* XXIII, 43–81.

Skilling, Peter and Pakdeekham, Santi (2002) *Pāli Literature Transmitted in Central Siam*. Bangkok: Fragile Palm Leaves Foundation/Lumbini International Research Institute.

Veidlinger, Daniel Marc (2006) *Spreading the Dhamma*. Honolulu: University of Hawaii Press.

Yamanaka, Yukio (2011) *Die Vessantaradīpanī. Ein Pāli Kommentar aus Nordthailand*. Saarbrücken: Südwestdeutscher Verlag für Hochschulschriften.

[和文]

清水洋平（2005）「Wat Hong Rattanaram 寺院所蔵貝葉写本調査報告：Paññāsajātaka 貝葉写本集成を中心に」『パーリ学仏教文化学』18，45–54.

松濤泰雄（1986）「北部タイ新出相応部写本について」『宗教研究』59-4(267)，180(644)–181(645).

山中行雄（2011）「タイ北部ラーンナー王国（1296–1558）で成立したパーリ語注釈書の重要性について— Vessantaradīpanī を例として—」『仏教史学研究』54（1），1–19.

〈キーワード〉 Sirimaṅgala, Vessantaradīpanī, Vessantarajātaka, ラーンナー王国，東南アジアのパーリ語文献

(Pali Text Society, Research Grant, Ph.D.)

NII-Electronic Library Service